

其二 野守之吏

中守の鏡と云ふものの修あり
 と云ふこといふはさうやくあり
 昔某日野守放鷹の時、山鹿を
 逐して、中守は同姓者の名を
 曰表の内は鏡の者ありと云行て
 見ると、鷹の口より血のわくは、
 未だ中守の影あり、縁を面白
 る、鷹の影あり、うらうらと見ゆ
 ぬ、おもしろい、うらうらの元を尋
 鷹あり、あう、あう、あう、あう、
 うらうらと見ゆ

月の上は うらう
 うらう
 うらう
 中守の鏡
 うらう

二三月ある
 鷹を山へい

